

若沖が着物になった——  
最初で最後のプライスコレクション

大丸東京店 11階催事場

2016年

4月27日(水) ▼ 5月3日(火) 祝

〔営業時間〕午前10時〜午後8時(初日は正午から、最終日は午後6時終了)

# 伊藤若沖 誕生300年記念展

Price Collection プライスコレクション

## 着物



あなたのうれしい! をお手伝い。

**DAIMARU** 東京店

電話(03)3212-8011/10時→20時 木・金の全館および平日の地階・1階は21時 12階レストランは11時→23時



名古屋帯「四季草花図押絵貼屏風」  
税込 1,404,000円



訪問着「菊流水園・葡萄園」  
税込 3,880,000円



錦袋帯「楽園随想」(白茶) 税込 1,296,000円  
伊藤若冲の「樹下鳥獣図屏風」(静岡県立美術館 江戸時代)より取材し、太鼓に獣、  
腹文の鳥で構成。虎・牛・鹿等を中心に、腹文は孔雀・鳥・七面鳥等で構成、タイル画  
の雰囲気を感じて意匠を凝らし質感豊かに織り表しました。(株式会社 川島織物セルコン)

# ZONEの「染」と川島の「織」のコラボレーション 伊藤若冲 生誕300年記念企画 東京初開催



名古屋帯「鳥獣花木園」  
税込 540,000円

の取り組みにご賛同いただく川島織物と初のコラボレーションを行います。川島織物からは、織の技術を駆使した帯地の数々が出品されるとともに、若冲との縁を物語る、1904(明治37)年のセントルイス万国博覧会に出展した、日本式室内装飾「若冲の間」が写真等で紹介されます。ZONEがつくる伝統技法を凝らした平成の京友禅に、江戸の若冲が踊る。明治の世に伝統の西陣織で若冲を世界に発表した川島織物の今に続く織の技。両者の古くて新しい技と美の物語をご覧ください。



総制作期間半年以上にも及ぶ「紫陽花双鶏図」をモチーフとした訪問着。京友禅の全ての技術と巧みな技を使い職人が魂を込めて作った一点物の訪問着が御披露目されます。



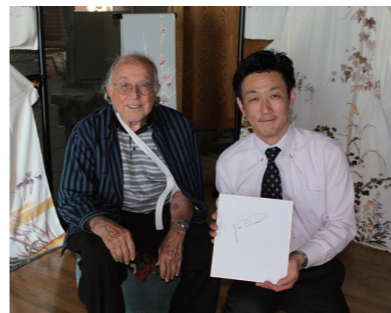
着物は世界に誇る日本独自の文化です。そしてその中心的な生産地は京都です。しかし、現在京都に伝わる技術はついでようとしていきます。現在京友禅に関わっている職人は高齢化が進んでいます。また、職人の中には高い技術を有しているにもかかわらず、友禅の仕事だけでは、収入が安定せず、他の仕事を掛け持ちしている場合もあります。そのため、弟子をとることが出来ず、技術の継承が難しい状態です。また、京友禅には消費者が信頼できる情報を得にくいという問題点もあります。京友禅には、様々な表示や証紙が存在します。その中には、インクジェットの製品や型で糊をおいた着物が含まれるものもあります。そのため、消費者の混乱をまねき、本物の手

描き友禅ではない着物をそうと知らずに多くの人が購入しているという現状があります。ZONEきものデザイン研究所は、この問題に正面から取り組む、京友禅における初の「メーカー」です。ZONEは、京友禅着物をプロデュースし、優れた染匠と熟練の職人の協業という新しいかたちで制作しています。生地開発から手描き友禅・型友禅などの制作を一括で行ない、さらに流通経路まで一本化したことで、消費者に高品質な製品をお届けすることを可能にしました。この試みは、世界的な若冲コレクターエツコ&ジョー・D・ブライスご夫妻の心も打ちました。氏とのご縁は、立命館大学との『産学連携協働プロジェクト』から始まります。ロサンゼルスのお宅では、ブライスコレ

クシヨンの作品を着物のデザインに使用する許可をブライス氏から直接受けることができました。使用に際してブライスご夫妻からの条件は、「元絵とまつたく同じものではなく、そこにクリエイティブイテイが介在すること」というものでした。今回、伊藤若冲生誕300年を記念してご紹介する「若冲ブライスコレクション 着物」は、ジョー・D・ブライス氏の賛同を得て手がけたもので、東京での開催は初となります。会場では、訪問着・小紋・絵巻物袋帯・名古屋帯・無地着尺の着物地や帯留めを約130点展示販売いたします。今回の記念展では、売り上げの一部をブライス氏の財団法人である心遠館に寄付いたします。さらに大丸東京店では、ZONE



伊藤若冲とは江戸時代中期に京都で活躍した絵師。その写実と想像を巧みに融合させた画風から奇想の画家と称されています。江戸絵画のコレクターであるジョー・D・ブライス氏により90年代後半より紹介され、飛躍的に人気が高まりました。



ロスのブライス邸にて認定

※スマートフォンアプリ「COCOAR2」をダウンロードしていただき、サインを読み取っていただくと、動画を見ることが出来ます。



ジョー・D・ブライス氏

*I am very happy that you are using the Jakuchu as a part of your kimono design.*

— ZONEの着物デザインに若冲が使用されることは、私にとって大変喜ばしいことです。  
ジョー・D・ブライス